

# 第6学年 体育科学習指導案

令和3年11月18日（木）体育館

## 1 単元名 ピーンと伸ばして、美しく回ろう！（跳び箱運動）

### 2 運動の特性

#### (1) 一般的特性

○跳び箱運動は、「回転」、「支持」等の運動で構成され、様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりして、技を身に付けた時に楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

#### (2) 児童から見た特性

跳び箱運動の楽しさや喜びを感じる要因	跳び箱運動を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"><li>・新しい技や、できる技がより上手にできるようになったとき</li><li>・技能の向上が感じられたとき</li><li>・友達と教え合い、励まし合って練習したとき</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・練習しても上手に技ができないとき</li><li>・けがをしたり、怖さを味わったりしたとき</li><li>・できたか、できないかが自分で分からないとき</li></ul>

### 3 児童の実態

#### (1) 知識及び技能

体育の学習でこれまでに3年生で「開脚跳び」、4年生で「台上前転」、5年生で「かかえ込み跳び」の3つを主に学習してきている。5年生の跳び箱運動の学習では、切り返し系の「かかえ込み跳び」と、回転系の「伸膝台上前転」を共通で学習した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大により、伸膝台上前転の学習時間は1時間しか行っていない。

かかえ込み跳びでは、開脚跳びの技能との共通点を示しながら学習を進めたことで、助走から踏み切り、着手といった基本的な技能を身に付けることができた児童が多くいた。しかし、着手後の突き返しができず、跳び箱に跳び乗るだけになってしまう児童もいた。また、伸膝台上前転では、膝を伸ばすタイミングがつかめず、着地が安定しない児童がいた。

診断的授業評価において、「少し難しい運動に対して練習するとできるようになる自信がある」という項目において、他の項目に比べ、評価が低いことが明らかとなった。このことから、できないことができるようになるという経験を十分に味わえていない児童がいることも分かる。

#### (2) 思考力、判断力、表現力等

5年生の時から、課題を明確にして授業を進めてきており、本時のめあてを意識して学習に取り組むことのできる児童が多い。また、教師の発問に対して真剣に考え、具体的に答えられたり、学習カードの振り返りにおいて、学んだ技の技術ポイントや見つけたコツを記述したりすることのできる児童も多い。

1学期に行ったマット運動の授業では、自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすることのできた児童が多かった。

しかし、技の見せ合い、話合い活動でどんな声をかければ良いのか分からない児童がいる。また、体育での話合い活動になると、知識は身につけているものの、技能差があることから消極的になり、話合いにスムーズに入れられない児童がいたり、考えたことを伝えられなかったりする児童もいる。

#### (3) 学びに向かう力、人間性等

本学級の児童は、休み時間の外遊びにおいて全ての児童が外に行くなど、運動に対して意欲的な児童が多い。運動することが苦手な児童も見られるが、自宅で体を動かすことを習慣にしているなど、運動への意欲は見られる。学級全体が明るく素直で、男女ともに仲が良い。6年

生の体育の授業においては、仲間と協力する場面を意図的に設定してきており、助け合いながら活動することができる。

しかし、学習を行う中で、上位の児童は低位の児童からのアドバイスに対し、考えや取組を認めるといった経験があまりできていない。

安全面に対して、準備運動、整理運動をしっかりと行ったり、学習の約束を守ったりすることができる。しかし、器械・器具の準備、片付け、扱い方に対して意識できない児童もいる。また、安全面への配慮を行ってもなお、跳び箱運動に対して、「怖い」という恐怖心をもっている児童もいる。

以下は、単元前に実施した「跳び箱運動」に関するアンケート結果である。

	質問事項	好き・プラス意見	好きではない・マイナス意見
1	体育は好きですか	人	人
2	跳び箱運動は好きですか	人	人
3	その理由 (複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技ができるようになるから (88.9%)</li> <li>・友達と教え合えるから (72.2%)</li> <li>・技のポイントが分かるから (66.7%)</li> <li>・体が柔らかくなるから (33.3%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがが怖いから (100%)</li> <li>・体が硬いから (33.3%)</li> <li>・技ができないから (16.7%)</li> <li>・体を動かすことが苦手だから (16.7%)</li> </ul>
4	跳び箱の技ができない時にどうしますか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるまで練習する</li> <li>・できる子の動きを見る・できる子に聞く</li> <li>・同じ技の人たちで話し合う</li> <li>・動画や解説を見る</li> </ul>	
5	どの技ができるようになりたいですか (複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭はねとび</li> <li>・首はねとび</li> <li>・かかえ込みとび</li> <li>・開脚とび</li> <li>・伸膝台上前転</li> <li>・台上前転</li> </ul>	
6	6年生の跳び箱運動はどのようなものがいいですか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技のポイントやコツを知ったり、見付けたりできる授業</li> <li>・みんなと楽しく教え合い、課題を達成する授業</li> <li>・けがなく、安全に楽しめる授業</li> <li>・今できる技を上手に、かっこよくできる授業</li> <li>・新しい技や高い跳び箱に挑戦する授業</li> <li>・友達と協力して準備・片付けをする授業</li> </ul>	
7	その他気になることがあったら教えてください	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがが怖い</li> </ul>	

#### 4 教師の指導観

##### (1) 知識及び技能

6年生では、「伸膝台上前転」を必修技とし、その発展技として「首はね跳び・頭はね跳び」を設定している。伸膝台上前転の膝を伸ばして回転加速を生み出す動作（ため動作）を意識していくと、はね跳びへと発展していく。そのため、今回の授業では、伸膝台上前転を首はね跳び・頭はね跳び習得のための一つの技術ポイント（ための動作・回転加速）と捉えて、はね跳び習得に向けて学習を進めることとする。ただし、お尻が高く上がることで逆さになるのが怖い児童や、ため動作に課題のある児童などがいる場合などには、台上前転、伸膝台上前転、首

はね跳び、頭はね跳びの系統性を踏まえ、適宜1つ前の技に立ち戻らせてから「はね跳び」に取り組めるようにして、児童の技能向上につなげていきたい。

本単元では、「伸膝台上前転」と「首はね跳び・頭はね跳び」の知識の定着を図るために、各局面の技術ポイントについての映像資料・掲示資料を活用していく。これにより、技術ポイントと照らし合わせながら見合うことで、どの児童も話し合い活動に参加できるようにしていきたい。

また、はね跳びの基礎技能を身に付けるために、毎時間の授業の導入部分には、はねの部分に関する感覚づくりの運動を行う。さらに、主運動では簡単な場から取り組めるようにし、スモールステップで学習を進めていくことで小さな成功体験を多く積ませて技能の定着を図る。また、スモールステップでの場以外にも部分練習ができる場も用意し、はね跳び(一連の動作)で見つかった課題をステージからのはね降り練習するなど、技の局面練習と全体練習の往還をはかって学習を進めていくことで、技の習得につなげていく。

## (2) 思考力、判断力、表現力等

本学級の児童は、自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすることはできてきており、本単元でもそうした活動を継続して行っていく。その際には、ICT 機器を活用して、技術ポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、技のできばえや次の課題を確認するなどして、自己の課題を見付けることを丁寧に行っていきたい。

また、課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが課題となっている。そのために、グループの中で互いの役割を決めて観察し合う活動を取り入れる。具体的には、「演技タイム」において、踏切・着手・着地の3つの技術ポイントと照らし合わせてできばえを伝えさせる。同時に3つの技術ポイントを観察することは難しいため、一人1箇所とし、ローテーションさせることで、全ての児童が課題解決のための話し合いに参加できるようにしていく。さらに、一連の動きをICT機器で撮影し、教え合いの際に必要なに応じて活用していけるようにする。また、振り返りの際に、「誰に・どんなアドバイスをもらったか」、「誰に・どんなアドバイスをしたか」を引き出し、学級全体に広げていくことで、お互いに見合うことの良さを養っていく。

## (3) 学びに向かう力、人間性等

本単元では、毎時間、「演技タイム」を取り入れ、自分がやることのできる技を点数化し、その点数で競う演技会を行う。その際に、チームの点数を高めるために、友達の演技を見合いながら、協力してアドバイスし合ったり、励まし合ったりすることで、協調性や仲間意識を高めていく。

また、話し合い活動を行った際に、よい助言をしてくれたり、親身に教えてくれたりした仲間からのアドバイスによって、自分の動きがどう変わったか、また、自分がアドバイスしたことで、友達の動きがどう変わったかを記述していく。これらの記述を振り返り等で取り上げ、他の児童にも広めることで、協力して活動することの良さを実感できるようにする。合わせて、話し合い活動を行う際に、相手が伝えてくれた考えや取組を認めることができた児童を称賛し、学級全体に広げていくことで、共生の態度を養っていく。

さらに、器械・器具の準備や片付けの方法、演技の始めと終わりの合図など、学習に関係するルールを徹底させることで、全員が安全に取り組むことができるようにする。併せて、怖いと感じる児童に対して、簡単な場から組みませ、スモールステップで学習を進めていく。また、その児童に合った場に変更することも考えながら柔軟に対応していきたい。

## 5 単元の目標

- (1) 運動の楽しさや喜びを味わい、跳び箱運動の行い方を理解するとともに、技を身に付けることができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 自己の能力に適した技の課題解決の仕方を工夫し、自己の考えを友達に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

- (3) 運動に積極的に取り組み、友達の考えを認め、約束を守り、助け合って運動したり、器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

## 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①伸膝台上前転やはね跳びの行い方について言ったり、書いたりしている。 ②助走から両足で強く踏み切り、足を伸ばしたまま腰の位置を高く保った伸膝台上前転ができる。 ③自分のレベルに合ったはね跳びができる。	①技のポイントやコツを基に自分の課題を見付けている。 ②自己やグループで観察し合ったり、学習カードやICT機器を活用したりして、技のポイントやコツを友達に伝え合ったりしている。	①跳び箱運動の基本的な技に積極的に取り組もうとしている。 ②学習のルールや約束を守り、友達と助け合いながら、自分の役割を果たしている。 ③器械・器具の安全に気を付けて、準備・練習・演技・片付けをしている。

## 7 単元の計画

- (1) 領域（器械・器具を使った運動遊び、器械運動）の取り上げ方

運動／学年	マット運動系	鉄棒運動系	跳び箱運動系
第1学年	マットを使った運動遊び 7時間	鉄棒を使った運動遊び 7時間	跳び箱を使った運動遊び 6時間
第2学年	マットを使った運動遊び 7時間	鉄棒を使った運動遊び 7時間	跳び箱を使った運動遊び 6時間
第3学年	マット運動 7時間	鉄棒運動 7時間	跳び箱運動 6時間
第4学年	マット運動 7時間	鉄棒運動 7時間	跳び箱運動 6時間
第5学年	マット運動 6時間	鉄棒運動 7時間	跳び箱運動 6時間
第6学年	※マット運動 6時間	鉄棒運動 7時間	※跳び箱運動 6時間

※年間計画上は6年生のマット運動、跳び箱運動は6時間だが、昨年度、新型コロナウイルス感染症による臨時休校等のため計画時数通り実施できていない。そのため、その分の補習を行うために、本年度実施時数は9時間としている。

- (2) 領域の内容（マットを使った運動遊び・跳び箱運動）と目指す動き

学年	内容	目指す動き
1・2	跳び箱を使った運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>片足で踏み切って跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすること。</li> <li>数歩の助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いてまたぎ乗ったり、またいだ姿勢で手を支点に体重を移動させてまたぎ下りたりすること。</li> <li>数歩の助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いて両足で跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすること。</li> <li>タイヤや馬などを両手で支持してまたぎ越すこと。</li> </ul>
3	跳び箱運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>助走から両足で強く踏み切り、足を左右に開いて着手し、跳び越えて着地すること。</li> </ul>
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>助走から両足で強く踏み切り、腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地すること。</li> </ul>

5	跳び箱運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助走から両足で強く踏み切り、足をかかえ込んで跳び越し着地すること。</li> </ul>
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・助走から両足で強く踏み切り、足を伸ばしたまま腰の位置を高く保って着手し前方に回転し、着地すること。</li> <li>・伸膝台上前転を行うように腰を上げ回転し、背中(頭頂部)がついたら腕と腰を伸ばして体を反らせ回転し、着地すること。</li> </ul>

(3) 指導と評価の計画（9時間扱い） 本時は○印 6／9時

時間	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9
ねらい	跳び箱運動の学習の見通しをもとう。	伸膝台上前転はいつ膝を伸ばせば良いか見付けよう。	自分の伸膝台上前転の課題を見付けよう。	技のポイントやコツを意識して、伸膝台上前転ができるようになるう。	はね跳びのポイントを見付けよう。	自分のはね跳びの課題を見付けよう。	自分のレベルに合ったはね跳びができるようになるう。	友達と演技を見合い、気づいたことを伝え合おう。	学習の成果を発揮し、演技会に取り組もう。
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備・片付けの方法</li> <li>試しの演技</li> <li>感覚づくり運動の行い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伸膝台上前転のポイント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の伸膝台上前転の課題発見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伸膝台上前転の練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>はね跳びのポイント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のはね跳びの課題発見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>はね跳びの練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の確認</li> <li>見合い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の確認</li> <li>演技会</li> </ul>
学習過程	1 集合・整列・挨拶・健康観察をする。 2 準備運動をする。 3 場の準備をする。 4 感覚づくりの運動をする。 (腰上げ&跳び下り、アンテナブリッジ、ステージ上からの台上前転、パレット上で台上前転、マットを用いた台上前転)								
	5 本時のねらいを確認する。								
	2 準備運動をする。 3 跳び箱や用具の準備の仕方を知る。 4 感覚づくりの運動の行い方を知る。 5 試しの演技会を行う。(単元開始時の演技点の確認及び動画撮影) 6 跳び箱や用具の片付けの仕方を知る。 7 学習カードの記入の仕方を知り、学習を振り返る。 8 整理運動を行う。 9 挨拶をする。	6 伸膝台上前転の動きを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>場の設定を行う。</li> <li>伸膝台上前転の動きのポイントを見付ける。</li> <li>動画撮影を行う。</li> </ul>	6 伸膝台上前転ができるようになるための課題を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用したり、友達と見合ったりして、自分の課題を把握する。</li> <li>自分の動きと良い動きを比べ、課題を把握する。</li> </ul>	6 膝を伸ばした伸膝台上前転になるよう自分にあった場で課題解決をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>場の設定を行う。</li> <li>伸膝台上前転を段階に沿って練習する。</li> </ul>	6 はね跳びの動きを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>場の設定を行う。</li> <li>はね跳びの動きのポイントを見付ける。</li> <li>補助の仕方を知る。</li> <li>動画撮影を行う。</li> </ul>	6 はね跳びができるようになるための課題を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用したり、友達と見合ったりして、自分の課題を把握する。</li> <li>自分の動きと良い動きを比べ、課題を把握する。</li> </ul>	6 きれいなはね跳びに挑戦する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>場の設定を行う。</li> <li>はね跳びを段階に沿って練習する。</li> </ul>	6 今できる技を使って演技会に向けた練習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>お互いに技を見合ったり、ICT機器を活用したりして、気付いたことを伝え合う。</li> <li>7 プレ演技会をする。</li> <li>グループ内で演技を行う。</li> </ul>	6 前時の内容を踏まえ、技の工夫、修正を行う。 7 演技会を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>チームごとに演技を行う。</li> <li>単元開始時の演技点と比べる。</li> <li>演技の動画撮影を行う</li> <li>クラウドに動画をアップロードする。</li> </ul>
	7 演技タイムを行い、できばえを確認する								
8 用具の片付けをする。 9 学習カードに振り返りを記入する。 10 本時のまとめをする。 11 整理運動を行う。 12 挨拶をする。									
評価計画	知・技		①		②		①		③
	思・判・表			①			①		②
	態	③			②				①
	方法	観察・ICT	観察・学習カード・ICT機器	観察・学習カード・ICT機器	観察・学習カード・映像	観察・学習カード・ICT機器	観察・学習カード・ICT機器	観察・学習カード・映像	観察・学習カード
場面	3、4、5	6・9	6・9	6・7	6・9	6・9	6・7	6	7

8 本時の学習と指導（6／9時）

(1) ねらい

技のポイントやコツを基に自分の課題を見付けることができるようにする。  
 〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 準備

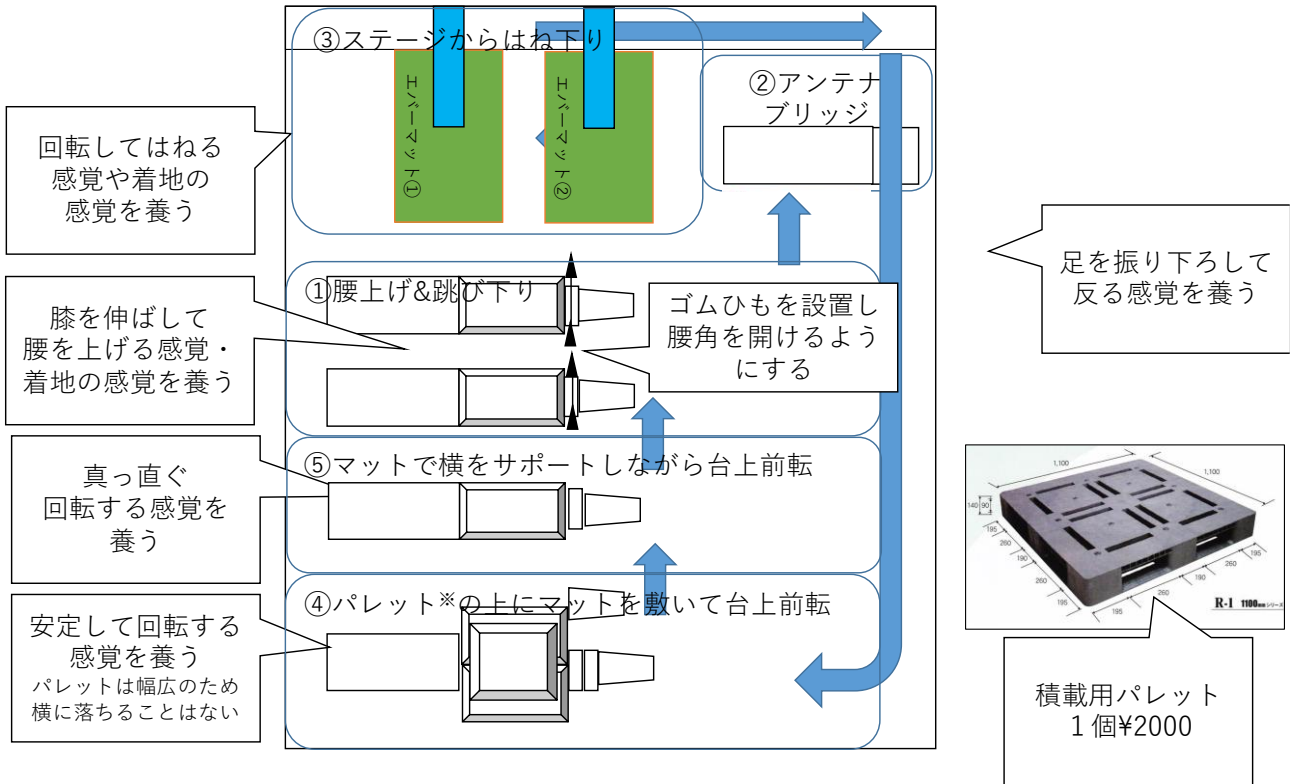
・マット ・エバーマット ・跳び箱 ・学習カード ・学習掲示資料 ・映像資料

(3) 展開

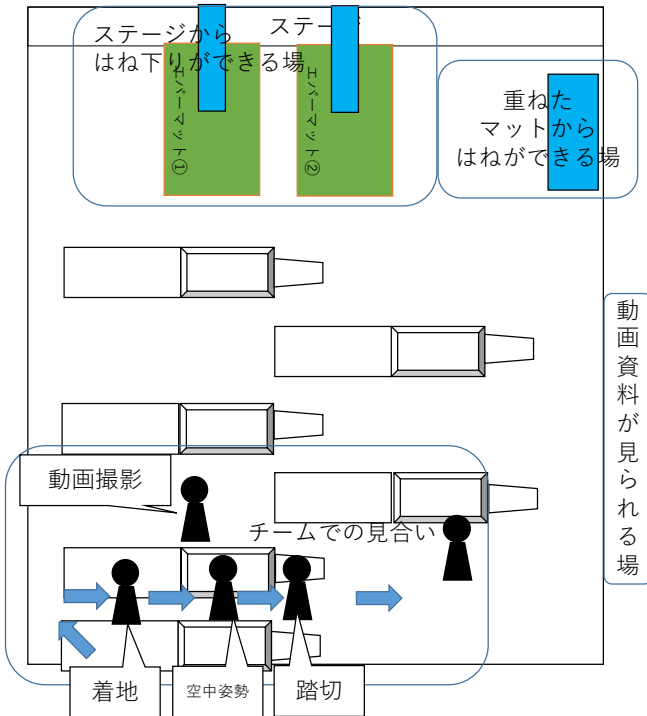
段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 10分	1 集合・整列・挨拶・健康観察をする。	○素早く集合し、グループごとに整列する。 ○身支度の確認をする。 ○元気に挨拶することで、授業に対する意欲を持てるようにする。
	2 準備運動をする。	○健康観察で、今の自分の体調を意識できるようにする。 ○準備運動では、これから使われる部位を意識させながら行うよう声掛けをする。
	3 場の準備をする。	○安全に気を付け、協力して素早く用意できるよう声をかけ、見届ける。
	4 感覚つくりの運動をする。 (1) 腰上げ&跳び下り (2) アンテナブリッジ (3) ステージからの台上前転 (4) パレット上で台上前転 (5) マットを用いた台上前転	○安全に留意しながら、一つの一つの動きを正確に行えるようにする。
展開 30分	5 本時のねらいを確認する。	○前時に行ったはね跳びの技術ポイントを振り返りながら、自分の課題を把握する活動であることを確認する。
	自分のはね跳びの課題を見付けよう。	
	6 はね跳びができるようになるための課題を把握する。	○グループの児童同士でポイントやコツを確認し合い、アドバイスやできばえ等の伝え合いができるように掲示資料を配置する。 ○見る側は、掲示資料に記載されたポイントに基づいて、具体的にアドバイスができるようにする。 ○試技をする際には、どの局面を見て欲しいのか言うてから行うようにする。 ○ICT機器を活用して、自分の動きを動画に撮ったり、お手本動画と比較したりするよう声掛けをする。 ○良い見合いをしているグループを取り上げ、クラス全体に広める。
◆技のポイントやコツを基に自分の課題を見付けている。 （観察・学習カード）【思考・判断・表現】		
△努力を要すると判断される（C）児童への指導の手立て ・自分の課題を見付けることが難しい児童には、ICT機器によって自分の動きとお手本動画を比較したり、技の系統表、段階表を提示したりして、自分の課題が把握できるようにする。 ◎十分満足できると判断できる（A）児童の具体的な姿 ・課題把握のために技術ポイントに基づいて見合ったり、振り返りにおいて明確な根拠をもって自分の課題を記述したりしている。		
	7 演技タイムを行い、できばえを確認する。	○今できる技を使って演技を行うよう声かけをする。 ○1人1回の演技とし、集中して取り組めるようにする。 ○前時と比べて、できばえが良くなった児童を称賛する。
整理 5分	8 用具の片付けをする。	○安全に気を付け、協力して素早く片付けられるよう声をかけ、見届ける。
	9 学習カードに振り返りを記入する。	○ねらいに沿った振り返りをしている児童や友達の考えを認めることができた児童の記述を取り上げ、全体に広めたり、次時につなげたりする。
	10 本時のまとめをする。	○本時で使った部位をゆっくと伸ばし、筋肉をほぐす。
	11 整理運動をする。	○しっかりとした態度で挨拶ができるようにする。
	12 整列・挨拶をする。	

(4)場の設定

4 感覚つくりの場の設定



6 課題を把握する場の設定



7 演技タイムの場の設定

